

あゆみ後援会会員
315名
(目標1000名)

みんなであゆみ

あゆみ後援会通信

VOL. 36

2013年3月29日発行

〒737-0001

広島県呉市津島4-1-7

あゆみ保育園内

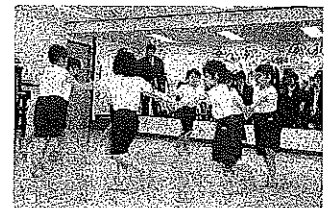
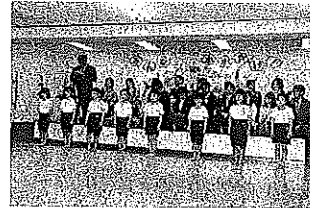
TEL: 082-24-0100

Eメール: rpbou@ayumikaibon.jp

HP: <http://business4.jp/aya/index.html>

第24回 あゆみほいくえん卒園式 3月24日(日)

テーマ『みんな かがやけ!』

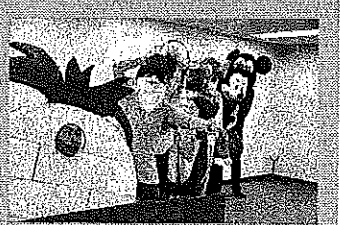
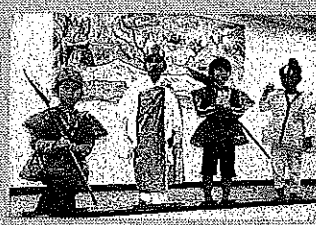
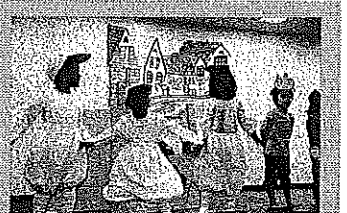
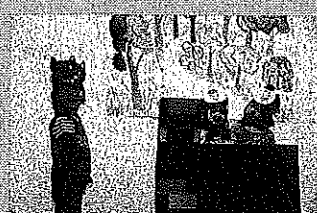
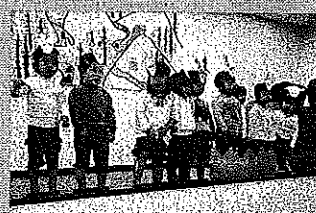
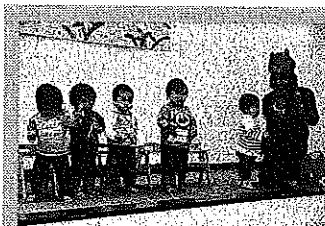


卒園おめでとう。今年は8名卒園しました。

一部の卒園発表では、竹馬・リズム・こま回し・剣玉・荒馬・竹踊り…とずっととりくんできたことを、自信をもって披露した卒園児たち。二部では一人ひとりが卒園証書を受け取り、8人が心一つにして、きれいな歌声と思い出の言葉を聴かせてくれました。強く、やさしく、たくましく育ってきた子どもたちは、自信と誇りを持ち、胸を張って卒園し、4月から3つの小学校に通います。

第29回 あゆみ生活発表会 2月24日(日)

テーマ『友達といっしょに楽しく表現しよう』



今年度はインフルエンザの大流行で、日程を一週間延期しての発表会となりましたが、一年間の子どもたちの成長発達をしっかり見ていただくことができ、保護者と共に喜び合うことができました。

1月のあゆみ子育て講演会で、講師の葛城妙子先生は「生活する力のある子は自信に満ちている」と言われました。あゆみ保育園では設立以来、「生活する力・あそぶ力・仲間とかかわるちから」を大切にしてきました。“生活の主人公”となり、大人にさせられるのではなく、自分が考え判断し選んでいく力をつけてきた子どもたち。

たくさんの観客がみている舞台上で、恥ずかしさを乗り越え、仲間と共にやりきる姿が見られた発表会でした。

保護者の感想より…

★我が子の成長はもちろん、他の仲間の子どもの成長ぶりに感激しました。昨年とはまた違うクラス各々のカラーが、いつもの園生活の充実を物語っていて親として嬉しくてたまらなくなりました。(2才児母)

★小さいクラスの演技も、とてもかわいくて我が子の小さい頃を思い出しました。くじらぐみの劇は、さすが皆セリフを覚えていて安心して見ることができました。無事に終わり、安心と「最後の発表会」が終わってしまったさみしさと複雑な気持ちでした。(年長児母)

広島県内から保護者や指導員の方が数多く参加されて、学童保育のことを共に考え学び合おうという方がこんなにたくさんいらつしやることに感動しました。

午前の全体会では学童の宮前先生が指導員代表として壇上に上がり、『みんなで作ってきたあゆみ学童クラブ』と題して発表してくださいました。あゆみ学童の歴史を語る中、皆さんとても興味を持って聞いて頂いたようで、午後からの分科会でも「あゆみ学童クラブの方ですね！いろいろ話を聞かせてください！」と多くの方々に私も宮前先生も質問されました。無認可で共同保育と広島県ではもちろん全国的にもめずらしい「あゆみ学童クラブ」のことを多くの方々に知ってもらえたことはとても良い機会を与えて頂きました。

記念講演は、石川幸枝先生（前高陽なかよし保育園園長）でした。講演の中で『子ども時代にもっともつけた力とは』と話され、①友だちをつくる力（友達と協力し合う、助け合う、時には喧嘩もして仲直り）感動を分かち合う；わくわく感で毎日が楽しい、生き生きと過ごせる②生活力（自分のことを自分でできる自立心とあてにされて人の役に立てることを喜べる）；自信を持って日々を暮らせることができる③あそべる力（イメージ力、創造力、仲間づくり、ルールづくり、組織力、豊富な体験で内面が豊かに）；とにかく楽しくて面白い、わくわく感、ちよつとしんどいことにも頑張れる力が湧いてくるはず④「わかった！」と学ぶことを楽しむ力。この四つがことば「あゆみ」でもよく先生方が言われていることと一緒だと思いました。保育園時代、学童期でも大事なことを改めて感じさせられました。

あゆみ 恒例の豆まき会

節分 豆まき会 2月1日 3才児クラス きりんぐみ

あゆみ恒例の大パニック豆まき会！！大きな新聞紙に描いたお堂から、ドンドン大きな音で青オニ・赤オニの登場です。子どもたちの引きつった顔！！「うお〜」と鬼たちが駆け寄ると部屋から飛び出す子、ロッカーの中に隠れて泣きわめく子、豆を思い切り投げながら、「あつちいけー」「オニはそとー」と叫ぶ子…ホールは大パニックです。年に一回の、この恐ろしい鬼を退治して強くなる子どもたち。今年も、病気オニ・怒りんぼオニ・泣き虫オニ・欲張りオニ・ふざけオニ・ふらふらオニ等をやつつけたきりんぐみさんです。



相談支援事業所「おひさま」を開設しました

おひさま児童デイサービスは、今年1月より「相談支援事業所おひさま」をたちあげました。事業内容は、発達の子どもの療育、しょうがい者のサービス利用のための計画を立てる仕事です。（介護保険というケアマネージャー）特に子どもの場合は1歳半健診、3歳児健診、発達相談を受けて保健師より紹介されるケースが多いです。発達に依じたより豊かな支援が受けられるようにサービス提供事業者、保健センター、保育園等子育て機関と連携しながら計画を立てています。利用者、保護者、家族の思いに寄り添える支援をしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

お知らせコーナー
【行事予告】
●第10回あゆみ後援会総会
日時 5月18日(土) 13:30~
※コンサート(計画中)あります。ご期待！
●第35回あゆみまつり
日時6月9日(日)
見て、食べて！みなさんの参加まっています。
※バザー用品ご協力お願いします。
★今年「第55回 呉みなと祭」には出店はしません。

「我が家の親娘事情」

林 詠子

長女が学童を卒会して9年、次女が卒会して6年、三女が卒会して3年。長女は変わらず保育士を目指している、次女は、芸術関係の仕事がしたいと短大へ進学を決め、三女は高校進学を音楽の専門校に決めた。

芸術、音楽、もつと堅実な道は無いのかと思うが、私には娘たちの能力を判断するほどの知識はない。娘たちは、母である私は趣味を仕事にしていると思つていらっしゃる。私の仕事選びは、高校時代に膝を痛め整形外科に受診したときに始まる、私の膝のX線写真とドイツ語の解剖学の本を見せてくれながら説明して下さった。高校生の私を相手に対等に扱い丁寧に説明してくださった先生をカッコいいと思つた。危険と思われていた放射線を使つて身体の中が診られている、私の膝がそこに写つていた。放射線を使つて写真を撮る仕事をしたかと思つた。両親には当然の様に反対された。しかし、その気持ちは止められなかった。親の反対と押し切り、あこがれの職業に就いた今がある。

娘たちが一人も私の仕事に興味を持つてくれなかったのは少し寂しい気もするが、彼女たちがこれまで体験したことや、出会った人たちに影響を受け自分で選んで進むようになっていくことは、止めることは出来ない。30年前の私と同じなのかも知れないと思う。

最近、大学でも家庭訪問をする地方もあると聞く、自立を認めるにはまだ早いということだろうか、親の責任を放棄することになるのだろうかとも思つたりもするが、私は本人が進む方向を自分で選んで歩み始めたときが自立の時だと思つて応援してやりたい。

出来ることなら安定した生活を送れる仕事を見つけてくれればと思うが、やりたい事があるのなら、とことん取り組んで納得した生き方をして欲しいと思つている。
まだまだ、迷える親娘たちです。
どうか、これからも温かく導いてやってください。